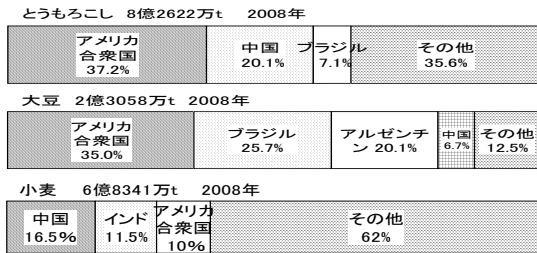


ねらい

小麦などの主な農産物の生産量の国別割合と中国との農業経営の比較から、アメリカ合衆国の農業の特色に関する学習課題を設定することができるかどうかをみる問題です。

① (2) 資料1, 2から、アメリカ合衆国の農業の特色についてどのような学習課題を立てることができるか。下の文に続くように学習課題を設定せよ。

(資料1) おもな農産物の生産量の国別割合



(国連食糧農業機関統計データベース資料2008年)

(資料2) アメリカ合衆国と中国の農業経営の比較

	アメリカ合衆国	中国
100 haあたりの農業従事者	2人	404人
穀物生産量	4億1217万 t	3億9529万 t

(国連食糧農業機関統計データベース資料2007年)

アメリカ合衆国は中国にくらべて、
() ののはなぜだろうか。

学習指導要領における内容

(1) - ウ - (I) 世界の諸地域について、北アメリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的現象を取り上げ、それを基に主題を設けて、北アメリカ州の地域的特色を理解させる。

指導上のポイント



資料1をみると、アメリカ合衆国では、とうもろこしや大豆、小麦が多く生産されています。また、中国でも多く生産されています。



そうですね。アメリカも中国も農業が盛んなようだけど、資料2から何か気付くことはないかな。



アメリカ合衆国は中国にくらべて、100 haあたりの農業従事者は少ないのに、穀物生産量は多いようです。



同じ農業が盛んな国でも、アメリカ合衆国は中国にくらべて、100 haあたりの農業従事者は少ないのに、穀物生産量が多いのはなぜだろうか、考えてみよう。

同じ農業が盛んな中国との農業経営を比較した資料を基に、100 haあたりの農業従事者は少ないのに、穀物生産量は多い理由を考えさせることで、アメリカ合衆国の農業は、大型機械を使って穀物を大量生産していることを理解させましょう。

地図帳等を利用して日本との農業規模を比較した資料を基に、1人あたりの農地面積や穀物収量の違いなどに着目させて、アメリカ合衆国の農業は、日本と比較して少ない労働力で、はるかに広い農地を営んでいることに気付かせましょう。

地図帳等を利用して、北アメリカの気候帯と農業の分布の資料を比較させることで、アメリカ合衆国では、自然条件にあった作物を作っていることを理解させましょう。

ねらい

九州地方の工業の特色の一つとして、ＩＣ工場が数多く進出してきていることがあげられる。そのＩＣ工場の立地条件について理解しているかどうかをみる問題です。

- 2 (5) 資料1は、2004年の九州地方のおもな工場の分布を表している。ＩＣ工場は、おもにどのようなところに分布しているか。資料1を参考に、輸送の面から説明せよ。

(資料1)九州地方のおもな工場



(「エネキ」-管理指定工場名簿 2004年)

(資料2)九州北部の自動車工場の位置



学習指導要領における内容

- (2) - ウ 九州地方について、産業を中核とした考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。

指導上のポイント



資料1をみると、九州のＩＣ工場は、空港や高速道路の近くに分布しているように思います。



そうですね。では、なぜ空港や高速道路の近くに分布しているのでしょうか。



空港や高速道路の近くだと原料や製品の輸送に便利だからではないでしょうか。



資料2から、九州北部の自動車工場は、どのようなところに分布していますか。



港の近くに分布しているように思います。ＩＣ工場は、空港や高速道路の近くに分布していたけど、自動車工場の分布とは、少し違うのかな。



どうして、そのような違いがあるのかな、考えてみよう。

九州地方のＩＣ工場の分布については、小学校で学習した自動車工場の立地条件と比較させることで、なぜＩＣ工場は空港等の近くに多いのか、輸送面等との関連から考えさせましょう。

次に、全国のＩＣ工場の分布に関する資料を基に、ＩＣ工場の多くは、空港や高速道路の近くに立地しているという共通性についても気付かせましょう。

ＩＣ工場や自動車工場の立地条件について考えさせることで、工場の立地については、原材料や製品等の輸送条件、それらの輸送のためのコスト等に影響を受けることについても理解させましょう。